

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	急性心不全患者における来院時血圧と循環血漿量変化の関係について
研究責任者	池ノ内 浩
研究機関名	日本赤十字社医療センター 循環器内科
研究目的と意義	<p>従来、急性心不全は体液貯留により生じるものだと考えられていました。昨今、体液の再分布、すなわち血漿の血管外漏出によっても引き起こされると考えられています。血管外漏出は来院時血圧が高値の群でより起きていることが提唱され、治療方針にも反映されていますが、その根拠は乏しいのが現状です。</p> <p>本研究では、来院時血圧を141mmHg以上、100～140mmHg、100mm未満の3群に分けて、来院後の循環血漿量変化に有意差があるか(すなわち来院時血圧が高値の群は、治療開始に伴い、循環血漿量が増加するか)を検討します。また循環血漿量変化を規定する因子として、来院時血圧が含まれるかを検討します。この研究は急性心不全の病態解明に寄与し、現行治療法の評価、新たな治療法の検討に有用と考えられます。</p>
研究方法	<p>2016年4月から2017年6月までの間、当院循環器内科に入院した全ての急性心不全患者さんを対象にします。ただし、下記に該当する方は除きます(①入院時とその後48時間以内に血液検査を施行されていない方、②来院時心肺停止だった方、③来院時血圧が測定困難なほど低値だった方、④大動脈内バルーン・ポンピング、膜型人工肺を使用された方、⑤活動性出血があった、または輸血を要した方)。</p> <p>対象患者さんの年齢、性別、体重、NYHA機能分類、心拍数、血圧、血液検査結果、心臓超音波検査結果、治療内容等を医療記録より後ろ向きに収集します。入院時と24時間後(入院時から24時間後に最も近い時点での値を採用)の収縮期血圧、体重、ヘモグロビン、ヘマトクリットの差を調査します。それらの値から、24時間での循環血漿量の変化を推定します。</p> <p>対象患者さんを来院時血圧によって141mmHg以上、100～140mmHg、100mm未満の3群に分けて解析します。この3群間で各種指標に統計学的な有意差が生じるかを検討します。さらにこの3群間で24時間の循環血漿量変化に有意差があるか、また循環血漿量変化を規定する因子として来院時血圧が含まれるかを検証します。</p> <p>臨床情報およびデータの取り扱い等においては、研究対象者の個人情報保護に十分に配慮し、研究担当者が施設で匿名化し、厳重に管理します。上記対象に該当すると思われる患者さんで本研究への登録を希望されない方は下記までご連絡下さい。登録を希望されない場合でも、日常の診療等において患者さんが不利益を被ることはございません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 循環器内科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者:池ノ内 浩、上原 和幸 TEL:03-3400-1311 FAX:03-3409-1604</p>